

国際的に有名なヒーラー
エリック・パールと日本のつながり

【Track1】

本田 健 (以下、本田) : 皆さん、こんにちは。アイウエオーデ
ィオ倶楽部へようこそ。今回のスペシャルゲストは、ドクター・
エリック・パールさんです。

エリック・パール (以下、エリック) : ありがとうございます。
また日本に来られてとてもうれしいです。前回から久しぶりで
すけれども、また来られて本当にわくわくしています。

本田 : あれからもう何年かたちました。またエリックさんが日
本に帰ってこられて、すごくうれしく思います。エリックさん
の御著書『リコネクション―人を癒し、自分を癒す』の本を翻
訳させていただいたのですが、それ以来たくさんの方に、「エリ
ックさんはいつ日本に帰ってくるのか」ということを聞かれま
した。そのたびに「来年かな?」と毎年言っていたのです(笑)。
そして、ついにエリックさんがこちらに来てくれました。セミ
ナーなどで、エリックさんと面と向かってお会いできるという
ということに、すごくわくわくしている人が多いのではないかと
思います。

エリック : そうですか。私も、「うちに帰ってきた」というよう
な感じがしています。先日、数百人の前で講演会をしたのです
けれども、そのうち半分とは言わないまでも、3分の1ぐらい
の方に、私は「あっ、顔なじみの方々だな」という感じがしま
した。車に乗っていてもいろいろ気付くものがあるし、「ああ、
あそこが好きなレストランだな」などと覚えています。行きた
いところを思い出したり、一つの神社の前で立ち止まったりし
ました。

前に会ったときに「1~2年ちょっとお休みをして、そして
また戻ってきたら」というような話をしたと思います。それが
4年になってしまいましたが、ここでまたお会いすることがで
きたというわけです。

本田 : 写真をお見せできないのがとても残念ですが、今日のエ
リックさんのシャツとネクタイはとても印象的です。すごく美
しく、やや東洋的にも見えます。これは日本に来るからわざわざ
用意して下さったのですか?

エリック : 「あなたにお会いするために用意したのですよ」と言
いたいところなのですが、正直に言いますと、今回の訪日のた
めに手に入れました。とてもオリエンタルなスタイルで、私の
本質に合っているなという感じがして、すごく気に入っていま
す。

ご存じのように、私が生まれ育ったのは、日本的な設計の家
でした。その近所で日本式のデザインのうちは2軒しかなかっ
たのですけれども、私のうちがそのうちの1軒だったのです。
そこのクローゼットの中にはスライド式のドアがあって、そこ
に白い紙が貼ってあり、枠が木になっているふすま式のドアが
ありました。その上のほうが丸くなっていて屋根になっていた
のを覚えています。

本田 : すごいですね。ということは、もうその頃から日本との

つながりがあったということですね。

エリック : そうです。はっきりと日本を感じていました。

本田 : すごく面白いです。多くの読者の方にとっては初めてか
もしれないので、最初にお聞きしたいことがあります。エリッ
クさんの仕事は一体どういうものなのか。その後、どのよう
な子ども時代を過ごして、どうやってそのヒーリングの才能を
手に入れたかということをお聞きしたいと思います。

これは何百万回も聞かれた質問だと思いますが、最初に、「リ
コネクション」について、数分で話していただけませんか?

エリック : 数分ですか(笑)。それは人生の意味を説明しようと
するようなものです。というのは、あまりにも幅が広くて、総
合的だからです。でも、時がたっていくにつれて私たちの理解
もどんどん深まっています。

「リコネクティブヒーリング」というのは、私たちがヒーリ
ングするのをやめて、自分自身がヒーリングそのものになって
いくというような道です。私たちがより大きなレベルの光の中
で存在していくようになります。

「リコネクティブヒーリング」に関する国際的な研究・調査と
いうのが 24 件ほど行われていて、そのうち6件は、この「リ
コネクティブヒーリング」が実際に DNA を再結合させている
ということを示しています。

それによって私たち自身、つまり DNA から放射される光の
レベルが上がっていき、より定着型で調和的なものになってい
きます。そして、私たちの光のレベルが高くなっていけばいく
ほど、ヒーリングも幅広くなっていきます。そうすると、日常
的なほかの人たちとの関わりの中で、ひらめきを与えたり、そ
の人が本当に自分自身になっていくのを助けることができたり
するのです。

本田 : そのあたりをもう少し説明していただけませんか?

エリック : 私たちが取るすべての行動というのは、怖れや、欠
乏、制限、コントロール、テクニック、判断、エゴから来るも
のと、愛情や、豊かさ、繁栄、光、自由から来るものがありま
す。たいてい、そのどちらかです。

世界は変化しています。日本もこの4年間で、私が気付くこ
とができるようなレベルで変わっていますよ。

誰も特別な人間ではないけれども
すべての人が特別である

【Track2】

本田 : 日本がこの4年間でどのように変わったと感じているの
でしょうか?

エリック : 言葉を探しているのですが、地に足が着いてきた、
つまりグラウンディングしてきたといえはいいでしょうか。前
回、日本に来たときは、街を歩いていても、ちょっとふわふわ
と浮いているような感じがあったり、何か奇抜な楽しいファッ
ションを見かけたりしました。それが今はもっとフォーカスさ
れている形です。でも、退屈になったわけでもないし、悲しい

わけでもないし、制限されているわけでもないし、空っぽでもないのです。だから、地に足が着いている、現実フォーカスしていると言えます。

私たちが今、気づき始めていることは、「誰も特別な人間ではないけれども、すべての人が特別だ」ということです。そして、それは贈り物なのです。私たちがより特別であるとしたら、それは「誰も特別ではない、だからみんなが特別だ」ということを認識しているからでしょう。

私が世界中を旅していると、こんな T シャツを見かけます。「Kiss Me, I'm Italian」「私はスペイン人だからキスしてね」「私はジュエッシーだからキスしてね」「私が日本人だからキスしてね」「私がここにいるからキスしてね」と書かれています。

その T シャツが古くなって、色あせてきたなと感じたら、それを捨てて新しいものを手に入れてください。「Kiss Me, I'm You」——「私はあなたです、キスしてください」というように。

私たちが聞くのを怖れている質問があります。それは、自分は人とどう違うかとか、どうユニークなのかではなくて、「あなたと私はどんなふうに同じなのだろうか」という質問です。

太陽光線の一つひとつというのはユニークだし、それぞれ個別ですが、一つひとつの光線の中に無数の太陽のホログラムが含まれています。ですから、それは太陽全体でもあり、一つひとつの光線が太陽そのものなのです。

本田：ありがとうございます。では、いよいよ「リコネクティブヒーリング」についてエリックさんに聞いてみたいと思いますが、「リコネクティブヒーリング」というのは、一体どういうものなのでしょうか？

エリック：「リコネクティブヒーリング」というのは、エネルギーヘルスケアの中で今日最も大きく、最もよく知られている、現代的な形なのです。それは、単なるエネルギーヒーリングというものを超えて、エネルギーヘルスケアの分野に私たちを押し進めています。私たちは、国連や数々の病院、大学で講演をさせていただいているのですが、ちょうど今年、ひとつの研究結果をまとめたものが出版されました。それによると、「リコネクティブヒーリング」をわずか 10 分間やっただけで、同じ時間にされた理学療法の 2 倍、手足の可動性が増えたということです。

私たちのところでは、ドイツの 1,000 以上のベッドがある病院で医局長をしている人たちが、最新の研究を始めています。それによると、「リコネクティブヒーリング」をすることによって、肩や手の手術をした女性たちの腕の機能が回復していくだけでなく、未来の世代の DNA にまで影響を及ぼすことができることが分かりました例えば、乳がんが母親から娘へという形で代々遺伝することを止めることができるかもしれないという研究結果があります。

本田：本当にそうだとすごいと思うのですが、そういったものというのは、リサーチがしっかりされているのでしょうか？

エリック：たくさんの方が「リコネクティブヒーリング」に関して行われています。「リコネクティブヒーリング」というのは、今日のエネルギーヘルスケアのいわばリーダー的な存在

なのです。私たちは教育をどんどん広げています。それによって、病院のドクターたちや政府の人たちに「リコネクティブヒーリング」をヘルスケア伝達のシステムの一部として正式に認定し、受け入れてもらえることを目指しています。

それは全国的に行われるのみならず、各国においてもなされていくでしょう。当然ながら、日本もまたそれに従ってついてきてくれることを望んでいます。

時間という概念を超えて
地球上の一つの理解と再結合する

【Track3】

本田：エリックさんのクラスに通えば、一般の人でも、3日でもリコネクティブヒーリングのベーシックなことを学べるのでしょうか？

エリック：はい。「リコネクティブヒーリング」を、私は「ヒーリングアプローチ」と言っていて、「エネルギーヒーリングアプローチ」とは呼んでいないのです。リコネクティブヒーリングにすべてのヒーリングのテクニックが含まれているとともに、さらにもっと多くのものを与えてくれるからなのです。

金曜の夜と土曜、日曜の2日間半で、本当に基本的な部分を身につけることができるようなクラスをしています。もしプロフェッショナルになって、あなたのコミュニティを助けていきたいというならば、さらに月曜日、火曜日と続けていただいで、4日半のトレーニングプログラムになるというわけです。

本田：長い人生で考えたら、3日から5日というのは短いぐらいですし、その効果が一生続くということですよ。たくさんのお医者さんや看護師さん、その他ヒーリングに携わるプロの人たちがエリックのセミナーを受けていると聞いています。実際に、たくさんの方の奇跡が日本でも起きているということも耳にしました。

エリック：はい、そのとおりです。私たちは 10 万人近い人々をトレーニングしてきたのですけれども、そのうちの 2 万人が、いわゆる主流のヘルスケア従事者、医療従事者なのです。医師や、カイロプラクターのドクター、理学療法士、看護師、医学関係の研究者、リサーチャーたちも含まれます。

本田：エリックさんのヒーリングシステムは、しっかり機能すると思いますし、たくさんの方のヒーリングの効果・効能があるということは医学的にも証明されているようです。しかし、「リコネクティブヒーリング」がなぜうまくいくのか、機能するのか、どういう仕組みになっているのかという点がよく分かりません。この辺はわかりませんか？

エリック：ちょっとここで一息入れさせてもらいましょう。というのは、「どのように」「なぜ」という質問だからです。その質問は、とても勇気をくじくような、やる気をなくさせるような質問にもなり得るなと私は感じているのです。「どのようにこれが働くのか分かっていますか」と質問されたら、私の答えは「ノー」です。それは、私にもわからないし、誰にもわかりません。たくさんの方が、自分はそのやり方を知っている、

なぜ働くのか知っている」と主張するのですが、その人たちが言っていることは、どれも間違っています。でも、だからといって、彼らが言っていることの中に何らかの気づきや、洞察がないわけではありません。

本田：もう少し詳しく教えてもらえませんか？

エリック：科学界では「リコネクティブヒーリング」を研究していて、さらに洞察が深まっています。先ほどお話したDNAの再構築というのもその話の一つです。それから、ドイツのフリッツ・ポップ博士と、彼と一緒に研究していた研究者たちの仕事によって明らかになったことがあります。それは、DNAというのは光を放射しているのですが、その光が弱まっているときというのは、健康が弱まっているときなのです。そして、光が戻ってくるときというのは、健康状態が回復したときなのです。

「リコネクティブヒーリング」がもたらすエネルギーというのは、一般のエネルギーヒーリングよりも、より定着する、調和のレベルの光を持っています。どういうことかという、多くの研究者が感じているように、「リコネクティブヒーリング」というのは、瞬間的に結果がもたらされるように見えます。しかもその結果が一生継続傾向があるのです。

本田：なるほど。ヒーリングは一瞬にして起こるけれども、それがとても長く続くということだと思います。もう少し説明していただけませんか？

エリック：ひとつには、瞬間的にそれが起きます。本当に時間の外で起きているという感じです。2つ目には、その効果が生涯継続傾向があるということなのです。

リコネクティング——もう一回つながらと言われて、一体何につながるのかと思われるかもしれませんが、私たちはこの地球上の一つの理解と再結合しているのです。どういうことかという、学校に行ったときに、この世界は縦、横、そして深さがあり、三次元的だと学びませんでしたか？1950年代にアインシュタインが考えたことがあって、それを科学界は2000年になってようやく正式に受け入れました。実は、私たちは四次元的な存在で、高さ、幅、奥行きだけではなく、時間という要素があります。

私たちが住んでいるのは、巨大で果てしない多次元的な宇宙です。我々は、高さ、幅、奥行き、時間、そして引力というものが入っている風船の中に住んでいるようなものなのです。そして、この地球上の命と命の間の光というのは、時間・空間・引力を超えた外側にあります。

そこで私たちが今気づくこと、学んでいることは、「時間を超えた存在の仕方」です。これはおとぎ話ではありませんし、多分あなたにとっても聞き慣れない概念ではないと思います。なぜならば、これは量子物理学にとってもよく知られているからです。

誰もが宇宙の扉にアクセスする
方法を学ぶことができる

【Track4】

本田：量子物理学についても、よかったらここでちょっと触れていただけませんか？

エリック：量子物理学はこんなふうに説明しています。時間というのは、どんどん速く進んでいるのです。それは1つの方向に進んでいるのではなく、あらゆる方向に、同時に向かいながらどんどん速く進んでいます。2つ目に、時間というのは拡大しています。時間を四次元的な風船だと思ってください。その風船がどんどんふくらんでいきますよね。風船の表面が薄くなっていき、透けて見えてくるようになると、行き来ができるような通過性が生まれます。そして、時間の中と外との交流が始まります。3つ目に、時間そのものというのが消えていくのです。究極的にそうなります。それは耳で聞くとびっくりするような話なのですが、量子物理学が説明しているのは、究極的には時間というのは幻想だということなのです。

この概念というのは、どこの国で話しても不思議がられます。特に日本は時間意識が大変に強い国ですから、おかしい感じがするでしょう。私たちはその風船の中で、ダンサーのように、またアーティストのように、時間という概念の中でどのように行動していくことができるかということを意識しています。

また、私たちは、時間の外側でも機能することができます。だからこそ「リコネクティブヒーリング」というのは時間を超えて、本当に瞬間的に効果が現れるのです。そして、その効果がずっと長続きして消えることはありません。時間というのは「リコネクティブヒーリング」においてはリアルな要因ではないからです。時間というのは幻想なのです。量子物理学が説明しているとおおりです。

本田：ちょっと話題は変わりますが、今エリックさんは世界中でリコネクティブヒーリングを教えていると思います。アメリカ人やヨーロッパ人に教えるのと日本人に対して教えるのはちょっと違うのでしょうか？

エリック：私たちのティーチングアシスタントの多くが日本語を話せる人たちです。それに、セミナーではヘッドセットを使って日本語に同時通訳されています。ですから、聴き手が英語を知っている必要はないのです。私もまた、日本語を知っている必要はありません。私が知っている日本語というのは、本当にごく限られたものです。それでも私は教えることができます。

そして、コンセプトが違うのです。私たちは、四次元を超えています。私たちが教えているのは、どうやってこの周波数を感じていくか、どうやってその周波数と遊んでみるかということです。その周波数と遊んでみるにつれて、まるで私たちが彼らを手で引っ張っているように感じると思うのですが、実際は、私たちが彼らについていっているのです。

本田：とても興味深いお話だと思います。その辺をもう少し説明してもらえませんか？

エリック：これはオーディオで聞くより、実際に対面で話したほうがわかりやすいかもしれません。私たちがこの周波数にアクセスし始めたとき、宇宙の中に一つの扉というか、一つの開きが生まれるのです。そして、新しい何かはその入り口を通ってきます。例えば、私たちが普通のエネルギーヒーリングテク

ニックを教えているだけだったら、「私たちは誰でもこの能力を持っているのですよ」といった言い方ができると思います。私たちはそれにちょっと修正を加えた言い方をしています。「私たちは、誰もがこれにアクセスする方法を学ぶことができるのですよ」

でも、実際に紹介されて体験し、誰かと分かち合って、どうやってそれに慣れていくのかということを読んでみない限り、そこにアクセスすることはできません。私たちは、いわば、次元と次元の間のドアというか、通り道を開いているようなものなのです。そして、地上に存在していない何かがそこを通過していくような感じです。科学者やリサーチャー、研究者たちは「地上では目撃されたことがない」という言い方をするかもしれませんが、実際にそうなのか、そうではないのか、どちらでもいい話なのです。なぜなら、それは今ここにあるのですから。

本田：よかったらもう少し具体的に話していただけますか？

エリック：これは、私がとても感謝しなければいけないことで、自分が恵まれていると感じていることなのですが、自分ではその理由が何なのかを知らなかった。子どものときに「なぜ私はここにいるの？」というような質問をしたのを覚えています。なぜ私たちはここにいるのだろうか。我々は、大人になって成長して、結婚して子どもを持ちます。そして、その子どももまた成長して、結婚して子どもを持ちます。そしてまた、結婚して子どもを持って……というふうに、ちょうど小さなアリのようにこの地上を走り回っているわけです。一体、我々は何をやっているのか、と思うかもしれません。

今、私は2つのことに気づいています。1つは、「私たちは本当に恵まれている」ということです。多くの人が、この「恵まれている」という言葉を使うのはあまり好きではなくて、特にスピリチュアルな世界では「シンクロニシティ」という言葉を使うのを好んだりします。でも、私は「恵まれている」という言葉が好きなのです。だから使います。私たちは本当に恵まれています。「この地上に生きている目的が何なのか」ということを認識することができ、もし勇気があるならば、その人生の目的を本当に生きていくという選択ができるからです。

どのように物事を解釈するかという判断は、あなたに委ねられている

【Track5】

本田：エリックさんの本当に深い話をずっと聞いてきたわけですが、先ほど「人生の目的」という言葉が出たので、エリックさんの人生の目的と、それから本についても少し話していただけますか。

エリック：私が最初に書いた本は『The Reconnection』という本でした。人を癒やして、自分自身を癒やしていくという内容です。あなたはとてもよくご存じのはず。なぜならば、あなたがそれを日本語で『ザ・ゲート』と呼ばれている本に翻訳されたのですから。

他の人たちに癒やしをもたらしていくというプロセスの中で私たち自身も癒やしを受け取ります。自分自身を癒やすことで、他の人たちにもより大きなレベルの癒やしを与えることができ

るのです。

私自身がこの人生の道に一足を踏み入れたときに、私は、他の人たちが続くための道を作ってあげたこととなります。彼らもまた同じように、他の人たちが人生の道の中に足を踏み出していくのを助けていくことになるわけです。というのも、ヒーリングのプラクティショナーというのは、ちょうど私たちのように、ドクターであると同時に、教師でもあるからです。

本田：なるほど。ヒーラーとしてどういうことが大切なのかということもよかったら教えてください。

エリック：日常的に出会うクライアントを教育し、啓発していくことが責任になります。それによって、みなさん自身もその意識の中にとどまることができますし、より大きなレベルの癒やしをもたらすことができます。

そして、みなさんが本当に燃えているとき、そのことについて誰かに教えることができます。例えば健さんは、ジョン・ディマティーニさんにもインタビューされましたね。彼は、燃えている人の素晴らしい例だと思います。みなさんが彼のように燃えているときに、教えることができます。

みなさんが、リコネクティブヒーリングのファンデーション・プラクティショナーのレベルで本当に燃えているときに、クライアントさんたちを教育しているわけです。そうすると、特に若い人たちは、みなさんを見たときに瞳の中で考えて、「ああ、大人になったら、こんな人になりたい」と言っています。それこそが本当に最大のご褒美です。

本田：ちょっとアラカルトな質問をしてみたいのですが、光と愛とつながるには、どういうことに気を付けたらいいのでしょうか。

エリック：私たちは、単に肉体だけの存在ではありません。「怖れ」と「愛」について考えるときに、それは反対のものというふうに思いますよね。でも本当は、無関係な、相反するものではないのです。「怖れ」と「愛」というのは、別々のものではありません。私が最初に書いた本は、日本語版で『リコネクション』という本なのですが、それを健さんが、よりシンプルなバージョンにして、『ザ・ゲート』という本として翻訳してくださいました。そこで健さんが言われたように、『ザ・ゲート』というのは、もともとの『リコネクション』という本の約3分の1の内容になっています。それをシンプルな『ザ・ゲート』という形で読むことができるのは、とてもすてきなことだと思います。人によっては、「それでもう十分だ」という人もいれば、「もう少し深く見てみたい」という方もいるでしょう。そういう方たちは、オリジナルの『リコネクション』を読みたいと思うかもしれませんが、『ザ・ゲート』を読んで、そこから何かを得た後で、もう少し哲学的なところに私は話を進めていくからです。

どのように物事を解釈していくのか、そこにネガティブなチャージやポジティブなチャージを持たせていくかを理解するのはとても大事です。というのも、私たちは、そもそも本質的な、ニュートラルなものに関して解釈しているからなのです。例えば、私があなたに何か褒め言葉を言ったとしましょう。あなたはそこで褒められてうれしいと感じることもできれば、何か軽べつされたと感じることもできます。それは、あなたがどのよ

うに解釈するかによるわけです。反対に、私があなたを軽べつしようというつもりで何かを言ったときに、あなたのほうは、それを軽べつされたと受け取ることもできれば、褒められたと感じることもできるのです。

光というのは美しくニュートラルなものです。私たちはその光を取り入れて、関わっていくわけなのですけれども、光によって何かがとても明るく見えてくる、気づきが高まっていくような受け取り方をすることもできます。反対に、私たちが別のフィールドを通して解釈したときに、光は目をくらませるような存在にもなりえます。光そのものはニュートラルなのですが、私たちは、その光によって明るく目覚めることもあれば、目をくらませることもあるというわけです。それは、私たちの選択次第なのです。

怒りの裏に隠された感情を知り
自分の行動で状況を変えていく

【Track6】

エリック：ここで、Eメールで何かメッセージを読むという例えを使ってみたいと思います。Eメールでは書いた人の声のトーンがわかりませんよね。だから、「ちょっと軽べつ的なメッセージだ」と感じたら、そこでいったん止まって、今度は、より心地良いような声の調子で読み直してみるのです。そして、このメッセージが本当に軽べつ的なのか、それとも私たちが自分でネガティブなトーンをそこに当てはめてしまったのかということを確認することができます。

人間関係の中でいろいろな形でストレスを感じたときにも、数メートル下がって、全体像を見てください。自分の感情が「怖れ」から来ているのか、「愛情」から来ているのか。「怖れ」というのは、本当のところは、「自分が愛されないのではないか」という怖れなのです。

従って、「怖れ」とは何かという、「愛ではない」という概念そのものなのです。私たち自身の存在の本質というものは「愛」そのものですから、「怖れ」というのは、自分が存在していないのではないかと怖れ以外の何者でもないのです。我々が怒りを感じたときには、本当に感じている気持ちから2歩ほど離れています。

「怒り」というのは、私たちが自分に感じさせても構わないと感じている気持ちなのです。なぜならば、もし「怒り」のところでは止まらずに、さらに深く感じていくと、その下にあるのは「悲しみ」になります。私たちは、「悲しみ」は感じたくはありません。「怒り」を感じているならば、「悲しみ」を経験しなくても済むから、私たちは怒っているわけです。

では、その「悲しみ」の下に何があるのかということ、それは「怖れ」です。私たちが本当に感じたくない「怖れ」とは、つまり、自分は存在していないのではないかと「怖れ」なのです。

自分が腹を立てているときに「ああ、本当は悲しいんだ」と知ることができれば、誰かが怒っているときにも、「あの人は、本当は悲しみを感じていて、怖れているのだ」ということに気付くことができます。「怒り」というのは、自分と人を分離させてしまいます。誰でも、怒っている人には近づきたくないですよ。誰かが悲しんでいるとか怖れているというのを見たときに、私たちはそこで安全さと心地よさを感じさせるために、そ

の人に近づいて抱きしめてあげたり愛してあげたりすることができます。それによってその状況そのものが変わるわけです。

光そのものはニュートラルなのです。私たちは、その光が辺りを照らしてくれる明るいものであると選ぶこともできれば、その光が目をくらませるようなものだと解釈することもできます。つまり我々の選択次第なのです。ありがとうございます。

本田：エリック、本当にありがとうございます。日本でエリックがセミナーをやるということはとても名誉なことだと思いますし、たくさんの方を育てていただきたいと思います。ぜひ日本に帰って来ると約束してもらいたいです、いかがでしょうか。

エリック：はい。皆さんがサポートしてくださる限り、私たちはまた戻ってくることをお約束します。

本田：Thank you very much.

さあ、いかがだったでしょうか。今月も最後までお聞きくださって本当にありがとうございました。来月も素晴らしいゲストをお迎えしてお送りする予定ですので、ぜひ楽しみにしてください。

では、さようなら。

■対談を終えて

エリック：健さんとのインタビューは本当に楽しかったです。ありがとうございました。健さんは私の答えに真剣に耳を傾けてくれました。これは本当に芸術的としか言いようがありません。私にとっても、とても美しい瞬間でした。多くのインタビューは、私が答えている間も、頭の中は次の質問でいっぱいになっています。でも、健さんはその場に一緒にいるという素晴らしく美しい能力を持っていて、答えに本当に真剣に耳を傾けてくれました。私がちょっとハッピーになったときにはあなたがほほ笑むし、私の目の中に感情が出てきたときにはあなたも共感してくれました。

私と健さんの間、そしてこのインタビューを聞いてくれている方たちの間にはきずながあります。これがあるからこそ、健さんはこの分野で本当に尊敬されていて、多くの人が傾聴しているのだと思います。

健さんからインタビューの依頼を受けたこと、そして実際に一緒にいる時間を体験できたことは、とても光栄なことでした。どうもありがとうございました。